

平成28年度

網走開発建設部における 紋別協働型道路マネジメントの取組について —官民協働による安心・安全な道路環境整備を目指して—

網走開発建設部 道路計画課 ○佐藤 明
 網走開発建設部 道路計画課 浦岡 優
 網走開発建設部 道路計画課 三原 一記

網走開発建設部では、紋別地域において、地域特有のニーズに即した使いやすい道路づくりを目指し、平成24年から協働型インフラ・マネジメントを導入した。地域住民・団体、学識者、行政、道路管理者からなる組織を設置し、目指すべき姿である基本プランの策定・実現に向けた活動を実践している。本稿では、PDCAサイクルにより継続的に取り組んできた約5年間の活動と得られた知見について報告する。

キーワード：多様な連携・官民協働、地域活性化、道路防災

1. はじめに

紋別市（図-1）は、オホーツク海沿岸のほぼ中央に位置する、人口約2万3千人の遠紋地域の中核都市である。主な基幹産業は漁業や農業、林業などの一次産業であり、特に漁業において、紋別市を含むオホーツク海沿岸は、日本一のホタテ貝の産地であり、国内シェアの約70%を水揚げしている。その他、サケ、マス等の水揚量も安定的に多く、中国やEU諸国へも高値で輸出されるなど、国内屈指の漁場が形成されている。

また、花・流水など地域資源を活かした観光推進にも積極的に取り組んでおり、特に流水が接岸する冬期は、流水砕氷船「ガリンコ号Ⅱ」や「氷海展望塔オホーツクタワー」、「流水科学センター」などの流水観光が、国内外を問わず関心を集めている。

一方、近年では二つ玉低気圧の影響で暴風雪の急速な発達と被害の甚大化が問題視されており、平成25年3月に発生した道東を中心とする暴風雪では、各地で長時間の通行止めやスタック車両が発生し、紋別市においても猛烈な吹雪とホワイトアウト現象の発生により交通事故が発生し、交通が麻痺する状況が続いた。

網走開発建設部では、平成元年に鉄道が廃線となって以来、道路が地域産業や観光、地域住民の生活を支える唯一の交通手段となっている紋別市において、官民協働の取組として「誰もが安心・安全に暮らせるための道」や「豊かな未来を育む魅力あるまちづくり」をテーマに、平成24年度から紋別協働型道路マネジメントを実践している。

本論文では、紋別協働型道路マネジメントにおける活動方針と、継続的に取り組んでいる活動事例について紹介する。

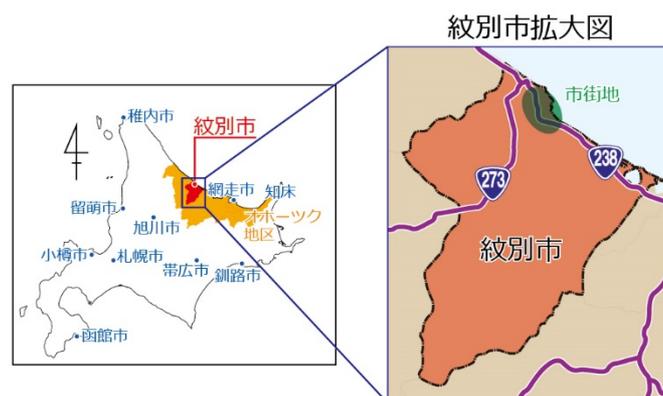


図-1 紋別市位置図

2. 紋別協働型道路マネジメントとは

(1) 設立経緯・目的

「誰もが安心・安全に暮らせるための道」や「豊かな未来を育む魅力あるまちづくり」をテーマに、地域住民が道路行政に自発的に携わることによる地域の活性化を目的とし、地域住民と行政が共に考え、共に行動し、地域課題を解消していく官民協働の活動として、平成24年度に「紋別協働型道路マネジメント」（以下、「紋別協働」という。）が設立された。

(2) 体制

地域住民側として紋別商工会議所、紋別商工会議所青年部、紋別観光協会、紋別青年会議所、Rosehips（道路を考える女性の会）、オホーツクのみちと未来を考える会が、行政側として国道、道道、市道の各道路管理者である北海道開発局網走開発建設部、北海道オホーツク総合振興局、紋別市役所が

参加する企画運営委員会を組織している。また、アドバイザーとして北見工業大学の高橋清教授や北海道科学大学の石田眞二教授に参加いただいている。

(3) 活動方針

紋別協働では、①地域情報の共有、地域課題の抽出②基本プランの策定（見直し）③推進プランの策定（見直し）④推進プランの実施⑤活動の評価⑥活動報告・意見交換の PDCA サイクルに基づき活動を実践している（図-2）。

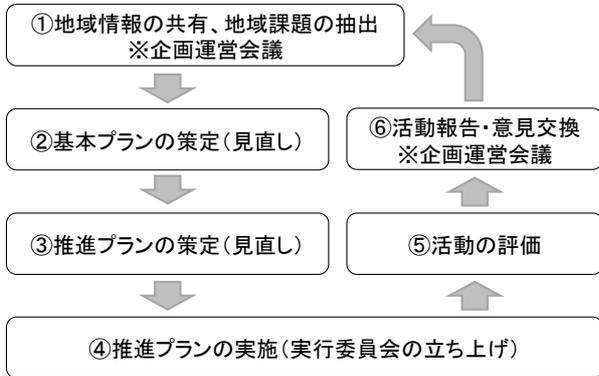


図-2 紋別協働におけるPDCAサイクル

①地域情報の共有、地域課題の抽出

紋別協働では、前項で紹介した体制に基づく、多様な主体からなる企画運営委員会を設置し、地域資源や地域情報の共有、地域課題の抽出等、活発な意見交換を繰り返している（図-3）。意見交換では、様々な分野からの地域課題に対する意見や質問が活発に議論され、また、女性の視点を活かした活発な議論も展開されている。



図-3 企画運営委員会風景

②基本プランの策定（見直し）

紋別協働設立の際、企画運営委員会においてワーキンググループ（図-4）を実施し、地域住民や行政が考える地域課題を抽出し、それらの課題解決に向けた共通認識を持って同じ目標に向かって取組んでいくことを目的に、基本プラン（図-6）を策定した。基本プランについては、「安心・安全」と「地域活性化」のテーマを、さらに、生活、交通、維持管理、景観、観光、産業の6つのテーマに細分化し、活動を行っている。また、1年を通じた活動を踏まえ、課題解決に向けた方向性を見直しを行うことで、基本プランの見直しを繰り返し実施している。



図-4 ワーキンググループ風景

③推進プランの策定（見直し）

前項で紹介した基本プランを基に、「誰もが安心・安全に暮らせるための道」及び「豊かな未来を育む魅力あるまちづくり」に向けた地域課題の解決を目的に実行委員会を設置し、より具体的な活動を行っていくための推進プラン（図-5）を策定した。

推進プランの策定にあたっては、基本プランにおいてカテゴリー分けを行った、生活、交通、維持管理、景観、観光、産業の6つのカテゴリー分類から検討を行っている。

安心・安全	生活	・砂まき活動 ・ふぶき待避所 ・防災教育メニューの検討
	交通	・ヒヤリハットアンケート ・現地表示実証実験
	維持管理	・維持管理メニューの検討
地域活性化	景観	・ビューポイントパーキング
	観光	・ゴマップ ・層雲峡・オホーツクネット
	産業	・道路整備等進捗状況報告

図-5 これまでの活動内容（推進プラン）

④推進プランの実施

推進プランの実施にあたっては、推進プラン毎で設置している実行委員会において、少人数編成でより活発な意見交換を目的とした推進グループ会議（図-7）を実施し、活動方針の検討、実践及び活動の評価を行っている。

実行委員会は、構成メンバーによる企画運営委員会の中から実行委員長や窓口を選出し、それぞれ実施メンバーを招集し、実行委員会の体制を作り、推進している。

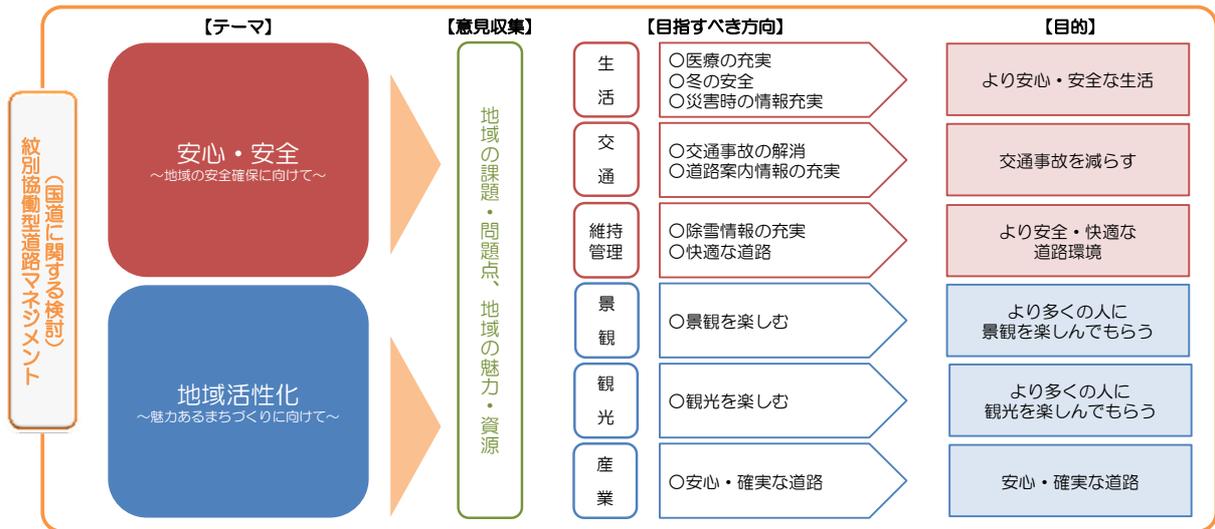


図-6 基本プラン

また、実行委員会での活動内容については、企画運営委員会において報告を行っている。

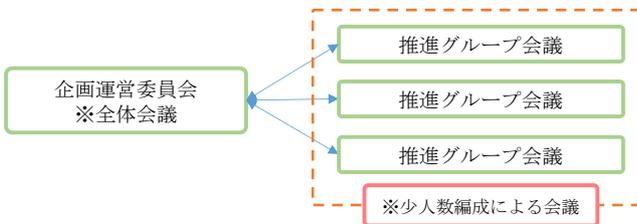


図-7 推進プラン検討体制

⑤活動の評価

各推進プランに対し、活動の振り返りとして、1年間の活動内容や成果について取りまとめを行うとともに、評価すべき点、改善すべき点など、継続的に実施していくための活動方針等の見直しを行っている。

⑥活動報告・意見交換

実行委員会における活動方針の見直し（案）については、企画運営委員会で全体へ活動報告を行っている。その際、改めて意見交換を行い、様々な視点から意見をいただくことでPDCAサイクルの「C」のチェック機能の充実を図っている。

また、推進プランの活動報告を踏まえ、基本プランの見直しの提言をいただくとともに、紋別地域の浸透化と地域全体の意識向上を図ることを通じて、紋別ブランドの構築を目指している。

3. 紋別協働型道路マネジメントにおける取組

(1) ふぶき待避所

地域住民の生活や産業、観光などの大部分を道路に頼らざるを得ない紋別市において、暴風雪時における避難車両の誘導・待避や幹線道路の交通確保を目的に、「ふぶき待避所」を実施している。

取組の経緯として、企画運営委員会での意見交換の中で、『平成25年3月にオホーツク地方を襲った

暴風雪の際、一般国道238号交差点周辺で事故が発生し、そこに居合わせた地元バスドライバーが「今後さらに大きな事故に繋がりにかねない」との判断のもと、日頃から親交のある近くの運送会社に緊急的な待避場所の提供を依頼し、事故車両やスタック車両、観光バス等を待避させることによって、結果的に事故の影響を最小限に留めることができた』という情報から、地域協働で実施できる暴風雪時の対策のひとつとして平成25年度にふぶき待避所の実証実験をスタートした（図-8）。

実証実験にあたっては、道路利用者が認識しやすいサイン看板の検討やチラシの作成・配布、HPや地元広報紙による周知活動を行い、地元民間企業2社と公共施設1箇所の協力の基、運用体制や運用マニュアルについて検証を重ねている。

ふぶき待避所の取組について、地域住民及びトラック協会へのアンケート調査を行った結果、9割以上がふぶき待避所の増設を望んでおり、有効な取組であるとの回答が得られた。

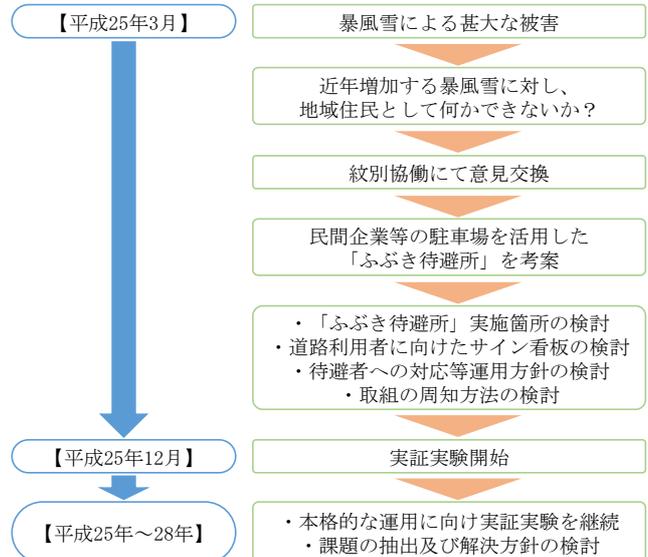


図-8 「ふぶき待避所」実証実験実施フロー

(2) 砂まき活動

紋別市の女性ボランティア団体「Rosehips」を主体とし、紋別養護学校と連携しながら、地域と一体となった冬期歩行の安全確保を目的とした砂詰めペットボトルの作成・配布活動を実施している。

砂まき活動については、紋別協働型道路マネジメント設立時から活動を開始しており、現在では、砂詰め（図-9）・配布作業（図-10）が紋別養護学校の授業に組み込まれるなど、官民協働の取組として地域に貢献している。

作成した砂詰めペットボトルについては、毎年、観光施設や公共施設、また、もんべつ流水まつり会場で配布されており、冬期歩行の完全確保に役立っている。今年度については、約700本の砂詰めペットボトルの配布を予定している。



図-9 砂詰め活動



図-10 砂詰めペットボトル配布活動

(3) 道路防災メニューの検討

紋別市は災害が少ないと言われている一方、平成28年8月には台風11号による大雨で広域的に避難指示が発令されるなど、近年増加傾向にある暴風雪災害や大雨・洪水災害に対する道路情報充実を目指し、防災に対する意識の向上を目的とした取組のひとつとして、防災セミナー（図-11）を実施している。

防災セミナーでは、冬道運転の備えと暴風雪時の対応や災害による被害状況の報告などに加え、参加者に応じ、防災に興味を持ってもらうためのゲーム感覚の内容から、道路管理者向けの体験型セミナー



図-11 防災セミナー講演風景

を実施している。今年度については、道路管理者等の行政向けに避難所運営ゲーム（Doはぐ）（図-12）を企画しており、地域防災力の向上を目指している。

防災セミナーについては、アンケートにより効果検証を行っており、徐々に防災意識の向上が図られてきている。



図-12 避難所運営ゲーム（紋別市）

(4) 新規推進プランの検討

紋別協働では、活動に至るまでに長期間を要する推進プラン（案）については、将来的な推進イメージを検討していくための勉強会等を開催するなど、地域のモチベーションを維持していくことを念頭に継続的に検討を進めていくものとしている。

現在、新規推進プラン（案）として、維持管理メニューの検討を実施しており、除雪に関する勉強会の企画検討を行っている。これは、官の除雪基準や取組等を民と共有することで、除雪について官民が連携・協働することを目的としている。

勉強会の企画検討に際しては、企画運営委員会において意見交換を行い、それらを基に、検討を進めている。

9. おわりに

紋別協働における取組を通して、行政と地域が一体感を持って積極的な意見交換や議論を継続的に実施していくことで、地域の安全・安心の確保、魅力あるまちづくりに向けて、更なる発展が期待される。

5年間の活動の中で、企画運営委員会のみならず、地域住民を巻き込んだ活動も幅広く実施されており、今後の官民協働の継続活動に対する多くの地域住民の道路事業に対する意識向上や紋別地域の活性化にも寄与することを期待する次第である。

また、さらなる紋別地域の発展に向け、これまで同様、官民協働に学識経験者も入れた産官学での幅広い知見から協働型道路マネジメントの導入による効果について検討を行っていくとともに、各推進プランの活動について、地域住民や観光客等にヒアリングやアンケート調査を行うことで、その効果や意識向上度合い等を把握し、より効果的・効率的な取組を目指していきたい。

網走開発建設部としても、事業中の紋別防雪事業の促進を自治体とともに進めていくとともに、地域協働等の取り組みを積極的に実施していくことで、地域の安全・安心なまちづくりに貢献して行く所存である。